

「民生児童委員とのカフェ・ド・ギカイ」の事前ヒアリング結果表

※ 太字表記は出席者。細字表記は欠席者（コーディネーターが報告）。

テーマ2：民生児童委員の今後の展望	議会の回答
<p>民生委員としてではなく、一住民として住み慣れたところで住み続けられるよう、お互いが助け合って、生きていける高根沢であってほしいという願いから、ちょっ困応援隊を始めた。</p> <p>外に出ることにより、お互いに元気でいられるようにしたいと思う。</p>	<p>民生児童委員は、子どもから大人までを対象とし、幅が広い。民生児童委員の基本姿勢は、①社会的奉仕の精神、②基本的人権の尊重、③政党・政治目的への地位利用の禁止、の3つで、これを重視していかなければ、本当に困っている人の助けにならないと思います。</p> <p>また、自治会加入率が低下しているため、今後は地域の行事を守り、積極的に参加していかなければならないと考えています。学校行事も同様です。</p> <p>誰もが元気でいられるように、民生児童委員の皆様方には、今後ともよろしく申し上げます。</p>

テーマ2：民生児童委員の今後の展望

議会の回答

自分の知らないところで、様々なことが起こっており、その情報の収集に困っている。後から気付くことが多い。よって、なるべく様々なものに参加するよう心がけている。

環境美化パートナー制度は素晴らしい。この制度で、高齢者の方々と美化活動を行っており、情報をもらえる機会をいただいている。

また、子ども食堂などで子どもたちの状況を聞いている。今後も見聞の機会を増やし、困っている人の相談に来れたらと思う。

最近、ある援護者から「庁舎移転に伴い、輪投げができなくなってしまって困っている。4年も待つ間に死んじゃうよ。」との相談を受けた。

高齢者が楽しめる集いの場を作っていただければと思う。

高齢者や児童の孤立化を防止すべく拠り所の紹介等が大切だ。

私の妻も民生児童委員を3期ほどやっていたので、その仕事の大変さは重々承知しています。

今、本町西部の自治会加入率が25%位になっており、少子化で登校している子どももあまり見かけない状況です。自治会に入って役員を引き受ける人もいないので、当然ながら、民生児童委員になる人もいません。役を引き受けても後継者がいないため、やめられない状況に陥り、決まった方々の負担が大きくなってしまっています。

個人的には、民生児童委員の仕事を軽くした方がいいと思っています。

今は、自分だけのことしか考えてない人がほとんどだと思います。また、民生児童委員の世話になりたくないと思っている人もいる世の中です。そして、民生児童委員というと、立派な人格者になるものだと考えている人が多く敬遠されがちです。これからは、民生児童委員が気張らずに誰でもできる仕事内容になれば解決するのではないかと思います。

- ・60歳を越えても働ける時代になってきたことで、民生委員を引き受ける年齢も上がってきて、体力的な面での心配も出てくる。
- ・女性の場合は、家事を担いながらの活動になるので、家族の理解と協力が必要になってくる。

テーマ2：民生児童委員の今後の展望

議会の回答

私の孫が不登校で、中学校時代にスクールカウンセラーにお世話になり、お蔭様で高校に行くようになってからは、積極的に1日も休まずに行っている。民生委員の私は、たまたま孫で経験した事案だが、民生委員の仕事は多岐に渡る。

東町北区には、若い人が結構住んでいる。学校とのつながりで、地域に密着した若い人材が民生委員になるのが、展望が開けると思う。

民生児童委員には、2つの役割があります。民生委員は、社会福祉の増進、生活上の相談など、児童委員は、児童の正しい在り方や児童の成長と幸福を願うことが使命とされています。

民生委員の選出方法は、各地区で異なっていますが、主に自治会長等を中心に選出を担っている地区が大半だと思われます。選考にあたっては、一線を退かれた方で、時間にある程度余裕があって、人格や見識などを考慮して、高齢者にお願いするケースが多いと思います。

場合によっては、児童委員としての役割もありますので、この点が理解不足となり、若い方の登用が少ない傾向になっていると思われます。

今後は、民生児童委員、特に児童委員の役割を自治会の会議、町の広報紙、ホームページなどで周知徹底することによって、若い世代や児童の保護者等の選考を促し選出するようになれば、若返りができて、展望が開けるのではと考えています。

テーマ2：民生児童委員の今後の展望

議会の回答

野中議員の指摘のとおりで、私の知り合いが行政区長だったため、「なり手がいないから、やってもらえないか。」と言われ続けてきた。今までは、仕事をやっており、引き受けられずに断っていたが、「地域のために何とならないか」という思いもあり、今回は民生委員を受けたという現状。

そして、1年目の時に全ての行事や講習に参加してみたが、認知症や傾聴などの講座数がとても多く毎日が大変だった。しかし、とても勉強になることばかりで、ありがたく思っている。2年目からは、ペース配分を考えながら参加している。

サロンに参加させていただいたところ、サロンの高齢化が問題になっていた。私の地区では、私の先輩方もサロンに入っていない現状。サロンの中身を見ると、昔の敬老会（シニアクラブ）と混ざり合っている状態だった。若い層もいなかった。サロンを立ち上げた方によれば、高齢者に限らず若い方も参加できるサロンを想定していたが、いつの間にか高齢者だけになってしまったようだ。

行政の予算もあると思うが、最近では自治会の行事が消滅しているので、皆が気軽に集まれるものを行政の中に上手く組み入れてもらいたい。

なり手不足は、どこでも同じ様な状況です。

私も以前、地区で「民生委員がいないので困っている。」とお願いされて、色々探したことがあります。仕事している方には「忙しいから民生委員の仕事ができない。」と断られ、高齢者の方には、「もう歳だからやれない。」と断られてしまう状況でした。

定年退職されたすぐの人の方が、引き受けてくれるケースが多いと思います。

まずはじめに、先生や役場の職員の方などに 候補者としてなるべくあたってみた方が良いのかなと思います。

部落の役を引き受ける場合は、「この役を受ける代わりに、今までやっていたこちらの役を引き受けてもらえないか。」とお互い様で、助け合うのが良いのかなとも思います。

私は保護司をやっていますが、担当していた人が3人の男性で、3人とも1人でアパート暮らしでした。こういう方たちは、アパートで1人で何もせずに、だんだん体が弱っていってしまう傾向にあります。そして、この3人も、その後、歩けなくなり施設に入って、お亡くなりになりました。この3人は、家族と連絡を取り合っていなかったために、亡くなった後の遺骨の引き取り手が分からず、役場で調べてもらって、私が連絡

テーマ2：民生児童委員の今後の展望	議会の回答
<p>民児協議会の活動をしていく中で、私を含めて高齢者（特に一人暮らしや二人暮らしのお年寄り）が増加している。</p> <p>また自治会役員のなり手が毎年いない中で、民生委員にも高齢化の波があり、次の担い手がないのが不安でもあり、課題でもある。</p> <p>地域の子どもの数が減少している中で、学校の縮小や再編の必要性もあり、大変な時代になってきている。</p> <p>今の時代に合った、行政を含めての改革が必要。</p>	<p>を取り、やっと血縁の方に引き取ってもらえました。私はこの孤独死を扱った経験から、深刻な問題だなと考えるようになりました。</p> <p>民生委員の問題も、町の方でも、私たち議員の方でももっと真剣に考えていかなければならないと思っています。</p>
<p>ぜひとも望むことは、主任児童委員には、教員経験者の方が、子どもの心理、親との関わり、学校との関わりなど、色々な面でスムーズに事が運ぶのではないかと思うことがあり、町の方でぜひ働きかけて欲しい。</p>	
<p>若い人に民生委員をやってもらう場合は、話し合いの場でアイデアを出し合うのも良いが、その仕組み自体を作っていかなければ厳しいのかなと感じている。例えば、民生委員を若い方にやってもらう場合は、現役で働いているので、夜や土日祭日だけでも民生員の活動ができるように仕組みを考えていかなければならない。</p> <p>自治会もそうだが、若い方々は、メリットがあるものしか興味がないため、町としては、自治会を全て無くしてやってみるところまで掘り下げていただき、自治会がないから次はどうすればよいかを新たに模索していく方法もあると思う。</p> <p>今の方たちは、自治会をやめても何も困らない。ただ、「ゴミ当番だけやればいいんでしょ。」という考えの人がほとんど。そして、どんどん自治会から抜けてしまう。</p>	<p>現状のなり手不足、自治会の組織の低下の話がありましたが、1つは、行政側の対応として、年齢制限を緩和していく中で、75歳以上の方も新任・再任という形を含めて年齢制限の枠を拡大していくことが挙げられます。高齢でも健康な方が増えているということ、また、70歳まで働いている方が多いため、その後に民生委員などになっていただく形もあるのかなと思います。</p> <p>若い方をどう取り込むかの話に関してですが、私も自治会長をやっており、若い世代が直接的なつながりを求めない傾向にあったり、自分の家族や仲間たちだけで楽しむという傾向があったりします。</p> <p>このような個別化が進む中で、他者に奉仕するという心の持ちようが難しくなっていると感じられます。</p>

テーマ2：民生児童委員の今後の展望

議会の回答

自治会という名前を変えて「防災〇〇〇」という名前に変えて活動していくなど、新しいことを考えていかないととも思う。それでも人が集まらないかもしれないが、時代に合ったギアチェンジして進めていかないと、なかなか若い方々がこないと思う。

これらの問題は、マスコミでも取り上げられている。大学のある地域では、家賃を安くして住んでもらう代わりに、自治会の活動に参加してもらうなどの発想の転換をして頑張っている地域が見受けられる。

なり手不足がもたらす影響

- ・ 地域福祉の低下
- ・ 行政との連携の弱体化

なり手不足解消に向けた取り組み

- ・ 活動内容の見直しと負担軽減
- ・ 多様な人材の確保
- ・ 活動内容の広報と理解促進
- ・ 選任要件の緩和

自治会の全国的な動きとしては、中学生や高校生が自治会の役員になる地域があるそうです。そういうことも自治会としては、考えていきたいと思っています。若い時に社会貢献のような形で経験を積んでもらうことによって、時間はかかりますが、奉仕の精神を育んだ方たちが地域に貢献していくように、人材を育成していくという考えもあるのかなと思います。

大学生も私の地域に若干いますが、その学生さんに民生委員になっていただくなど、年齢枠を超えた枠組みを構築していても良いと思います。

なり手不足解消として4項目挙げていただきましたが、非常に示唆に富む内容で、そのまま議会の課題として、一般質問を通じて、また、会派などの意見の取りまとめを通じて、行政側に提案していきたいと考えています。

テーマ2：民生児童委員の今後の展望

議会の回答

- ① 要支援者（世帯）が抱える問題が多様化し、複合化しているので、民生児童委員だけでは解決できない事例が増加している。関係機関、専門家を交えてチームを作りオーダーメイドの支援策を検討していく必要がある。
- ② 民生児童委員、町、社協間での情報共有は密だ。しかし、学校側との依頼、交流はあるが、問題の開示はない。議会を含め情報の共有が進められたらと考える。（⇒下に図解）
- ③ 民生児童委員の活動も大切だが、昔から「向こう3軒両隣」と言うが、基本は近隣住民の相互扶助の必要性を町民の基本理念となったらと考える。（転んだ時、手を差し伸べられるのは傍にいる人だけである。）
- ④ 民生児童委員の欠員について、自治会だけでなく人脈を有する議員も責任をもって対処してほしい。

民生児童委員の活動上の問題点と議会の関わり

《情報の共有について》

- ⑤ 民生委員の多くが指摘している点だが、個人情報保護のもと要支援者が分からない多くは、本人から町、社協に連絡があり、民生委員に連絡がある。住民間の絆が弱体化している昨今、民生委員が気付き関係機関に連絡することが難しくなっている。

民生児童委員について「広報たかねざわ5月号（NO.786）」の5ページに掲載されています。

①②⇒民生児童委員の対象は、高齢者だけではなく、若い人の生活困窮やヤングケアラーの問題、障害児に関する事、その他、生活全般に関する事にかかわっていて、町会議員以上に一番身近な存在が、民生児童委員だと思います。

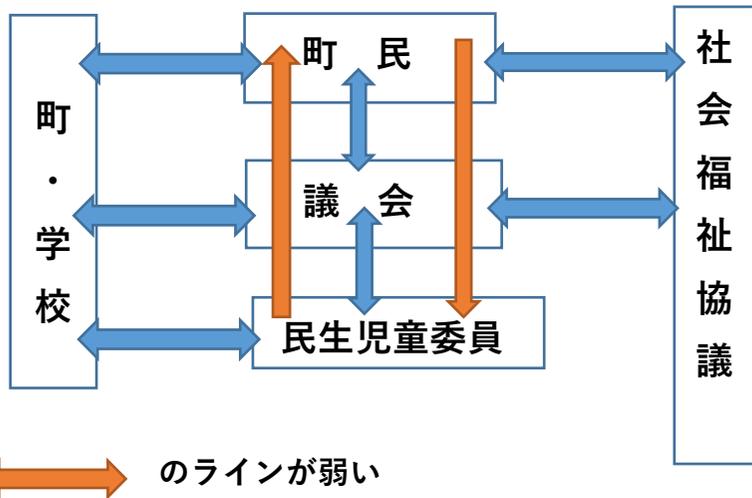
日常の困りごと相談に応じてくれる一番身近な機関は、役場や保健センター、社会福祉協議会、自治会等です。専門職としては、ボランティア、ケアマネージャー、保健師、ケースワーカー、医師、ホームヘルパー等です。民生児童委員の皆さんは、これらの方々と連携・協働をしていくということです。

議会との情報の共有が進められたらということですが、議員は町政全般を扱う存在です。私たち議員は、どこの地区にどの民生委員さんなのか分からない状況でしたので、今日のこのような機会が持てて大変良かったと思っています。

③⇒本町では、17年前に協働の精神で「結の心」を作っていこうと「まちづくり基本条例」が制定されました。ただ、絵に描いた餅のようで、地域住民に浸透していないのが現状です。地域住民、町、議会とも連携しながら皆で住みよい町を作っていきたいところですが、つながりが希

テーマ2：民生児童委員の今後の展望

問題を抱える住民 → 議員 → 対応所管課はある。しかし、赤字の部分は親しい町民に限られる傾向がある。
 SOSが出せない要支援の町民を把握し、早期に対応できるよう関係機関とともに検討して欲しい。



議会の回答

薄になっています。自治会の加入率も下がっている中、自治会へ加入していない方も対象としているのが、民生児童委員の皆さんです。私たち議員よりもたくさんの課題を持って活動されているのが民生児童委員の皆さんだと思います。

⑤→大変頭が痛いことを投げかけられましたが、議員定数は13名です。今、49の自治会があります。民生児童委員の皆さんは、53名です。そういった中で、49自治会で、「民生児童委員のなり手がいないので、議員さんが責任を持って対処してください。」といわれても議員は13名ですから、困難なことなのかなと思います。その辺をご理解していただければと思います。カフェ・ド・ギカイを私たちが開催している理由は、住民の皆さんの個人の意見だけではなく、様々な種類の団体の幅広い方の意見を聴いて、行政に提言できるものは提言していくためです。今後も、オーダーメイドの支援策を検討していくこと等を検討していきたいと考えています。

テーマ2：民生児童委員の今後の展望

議会の回答

日本の成長過程で立ち上がった民生委員が1917年以に岡山で始まって、1918年に正式に導入された。100年経った今もその時の考え方がずっと続いていて、現在とズレが生じていると思う。

民生委員は1期3年のため、3年毎に委員が交代していると、やっと仕事内容に慣れてきた頃に、また新しい民生委員に交代となるので、効果が発揮されにくいのではないかと思う。

先に民生委員の勉強会を設置するのが今後の展望となる。

108年経っている制度ですので、見直すべきところはあると思います。ただし、根幹を成している民生の理念は、これからも変わらずに続いていくと思います。それ以外は、時代時代により生活環境が変化するので、活動内容や情報共有の仕方は見直されるべきではないかと思います。このようなことを含めて、民生委員の勉強会が必要になってくるのかなと思います。勉強会設置にあたっては、民児協の皆さんだけでなく、町の健康福祉課や社会福祉協議会に音頭をとってもらって開催していくのも一つの手なのかなと思います。

共通して言えることは、なり手不足ですが、私は、視点を変えて民生委員の活動をもっと知ってもらうために広報・周知活動に力を入れていった方が良いのではないかと思います。5月12日は、民生児童委員の日で、ニュースでも取り上げられていました。ある市では、市長自らが1日民生児童委員となり、市民の交流イベントに出向き、民生児童委員の存在と活動内容をPRするといったこともしています。それから、宇都宮市では、民生委員と児童委員を紹介する「2足のわらじ」という冊子を出したということが下野新聞に掲載されていました。このようなことも、広報の1つの方法かなと思っています。

民生児童委員の皆さんは、幅広い知識や見聞をお持ちになられ、さらには熱意と奉仕の精神をお持ちの素晴らしい人格者だと私は思っています。相談者の方から「ありがとう」と言われることが一番の喜びと感じている民生児童委員の方もいらっしゃると思いますので、そういうことを誇りに思ってください、これからもよろしく願います。